

## 優秀賞

親切のせいきゅう書

群馬県 高瀬小学校 三年 松倉昊生

妹が宿題でわからなくてできない問題があったから、  
「教えてあげるよ。」と、親切のつもりで教えたのに、  
「自分でやるからいいよ。」

と言われて、けんかになってしまったことがありました。

お母さんに、

「相手がうれしいと思わないことは、親切じゃなくておせっかいになっちゃうんだよ。」  
と言われたけれど、ぼくは、妹がよろこぶと思って教えてあげたのに、何だかいやな気持ちになりました。

それを見ていたお父さんに、

「親切のせいきゅう書は出さないほうがいいんだよ。」と言われました。ぼくは、  
(親切のせいきゅう書って何のことだろう。ぼくはそんなもの、出したつもりはないんだけど。)  
と思って、お父さんに聞いてみることにしました。

ぼくのお父さんはおぼうさんなので、

「それは、おしゃかさまが教えてくれていることなんだよ。」  
と話してくれました。

人間は、だれかに親切をすると、そのお返しとして、「ありがとう」とおれいを言ったり、よろこんでもらいたいと思います。けれど、自分が思うようにかんしゃしてもらえなかったとき、「やらなければよかった」といやな気持ちになったり、相手のことを、いやな人だと思ったりしてしまいます。ぼくの気持ちと同じだと思いました。

おしゃかさまはそんなとき、

「親切のせいきゅう書を出さなくても、かならずあなたのした良いことは、いつかあなたのところに返ってくるからだいじょうぶだよ」

と、教えてくれているそうです。親切は、自分のちょきんになると考えればいいそうです。

親切がちょきんできるなんて、考えてみたことがなかったけど、ちょきんができたらとても良いと思いました。

そして、親切をするときは、「私が」「だれに」「何をしてやった」という三つの気持ちをわすれることが大切なんだそうです。ぼくは妹に、三つの気持ちをおしつけていたので、お母さんに言われた「おせっかい」になってしまったのかと思いました。

ぼくも、今までにやってもらってうれしくなかったこともあるので、それは相手から「親切のせいきゅう書」が出されていたからなのかもしれません。

親切のせいきゅう書を出さないで良いことをするのは、本当はとてもむずかしいことのような気がします。けれど、おれいを言ってもらえなかったとしても、良いことはいつか自分に返ってくると考えて、これからは、親切を少しずつちょきんしていきたいと思います。